

令和6年度

3年 社会科

年間指導計画及び具体的な評価の方法

観点別学習状況	評価の観点	観点番号
知識・技能		①
思考・判断・表現		②
主体的に学習に取り組む態度		③

月	指導事項区分		配当時間	指導内容 主な評価規準	観点番号	具体的な評価の方法
	単元	節				
4月	(歴史) 第4章 近代(前半)	・ 帝国主義と日本	5	<p>《指導内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内の社会状況や国際情勢とのかかわりなどの背景をふまえて、欧米諸国と対等の外交関係を樹立するための長年の努力の過程で条約改正が実現したことを理解させる。 ・ 大陸との関係をふまえて、日清・日露戦争にいたるまでの日本の動き、戦争のあらましと国内外の反応、韓国の植民地化などを取り上げ、日本の国際的地位が向上したことを理解させる。 <p>《評価規準》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①条約改正、日清・日露戦争などをもとに、日本の国際的な地位が向上したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②外交や戦争の展開に着目して、世界との関係や現代の政治とのつながりを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③国際社会との関わりについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 	① ② ③	<p>①社会科における基礎的・基本的な知識・技能が定着しているかを、評価する。 (単元テスト等)</p> <p>②社会的事象に対して、自分の考え方をまとめ、表現できるかを評価する。 (授業の課題、単元テスト等)</p> <p>③社会的事象に対して、主体的に追究できるかを評価する。 (授業の課題、テストの解き直しや振り返り等)</p>
5月	第5章 近代(後半)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次世界大戦と民族独立の動き ・ 高まるデモクラシーの意識 ・ 戦争に向かう世論 ・ 第二次世界大戦の惨禍 	<p>5</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>5</p>	<p>《指導内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させる。 ・ 経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。 ・ 戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・ 近代後半の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し表現させる。 ・ 近代後半の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。 <p>《評価規準》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。 ①経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。 ②戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②近代後半の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③近代後半の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 		

6 月	第6章 現代	<ul style="list-style-type: none"> ・敗戦から立ち直る日本 ・世界の多極化と日本の成長 ・これからの日本と世界 	5 5 5	<p>《指導内容》</p> <p>①冷戦，我が国の民主化と再建の過程，国際社会への復帰などを基に，第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる。</p> <p>①高度経済成長，国際社会との関わり，冷戦の終結などを基に，我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し，国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。</p> <p>②諸改革の展開と国際社会の変化，政治の展開と国民生活の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現させる。</p> <p>②現代の日本と世界を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現させる。</p> <p>②これまでの学習を踏まえ，歴史と私たちとのつながり，現在と未来の日本や世界の在り方について，課題意識をもって多面的・多角的に考察，構想し，表現させる。</p> <p>③現代の日本と世界について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決させる。</p> <p>《評価規準》</p> <p>①冷戦，我が国の民主化と再建の過程，国際社会への復帰などを基に，第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。</p> <p>①高度経済成長，国際社会との関わり，冷戦の終結などを基に，我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し，国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。</p> <p>②諸改革の展開と国際社会の変化，政治の展開と国民生活の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。</p> <p>②現代の日本と世界を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。</p> <p>②これまでの学習を踏まえ，歴史と私たちとのつながり，現在と未来の日本や世界の在り方について，課題意識をもって多面的・多角的に考察，構想し，表現している。</p> <p>③現代の日本と世界について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。</p>	
7 ・ 8 ・ 9 月	(公民) 第1章 私たちの暮らしと 現代社会	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが生きる現代社会 ・現代につながる伝統と文化 ・私たちが作るこれからの社会 	5 5 5	<p>《指導内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会やグローバル化の進展など，今日の社会的課題について理解し，持続可能な社会の形成に向けた視点をもって考えさせる。 ・家族や地域社会など身近な関わりについて，日本の伝統文化の形成過程と関連付けながら理解させる。 ・望ましい社会の形成について，「効率と公正」の視点に立って考え，理解させる。 <p>《評価規準》</p> <p>①少子高齢社会やグローバル化の進展などの今日の社会的課題について，国内外の政治・経済・社会など各側面での状況変化との関わりなどをもとに，諸資料から様々な情報を効果的に取り入れて，調べまとめている。</p> <p>②地球温暖化やコロナの影響など，21世紀の世界的な課題に着目して，世界各国との協力関係と関連付けながら，現代の社会の変化を多面的・多角的に考察し，表現している。</p> <p>③家族や地域社会など身近な題材や日本文化の世界への発信など，様々な関わりに着目しながら，「効率と公正」の視点に立って，望ましい社会の形成を目指すことに，主体的に考え，追究しようとしている。</p>	
9 ・ 10 月 ・ 11 月	第2章 個人を尊重する 日本国憲法	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の成り立ちと国民主権 ・憲法が保障する基本的人権 	6 10	<p>《指導内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパにおける近代民主政治の成立を理解するとともに，その思想や理論が現代の日本社会においてどのように実現しているのかを理解させる。 ・現代において普遍的な価値とされる基本的人権について，日本国憲法における規定を照らして理解させる。 ・社会の変化とともに拡大しつつある人権思想について，現実社会との整合性という視点で理解させる。 <p>《評価規準》</p> <p>①近代西欧諸国が人権思想を形成してきた事実をもとに，その思想や理論が大日本帝国憲法から日本国憲法に変わる歴史的過程の中で受け継がれてきたことを，諸資料から様々な情報を効果的に取り入れて，調べまとめている。</p> <p>②日本国憲法成立の成り立ちが2度の世界大戦を経た結果であることに着目して，欧米諸国民の権利意識の獲得の成果であることと関連付けながら，基本的人権思想と日本国憲法の特徴を多面的・多角的に考察し，表現している。</p> <p>③日本国民が持つ人権についての現代的な課題について，その問題点と自分なりの解決策について，「あたらしい人権」に見られる裁判例などに着目しながら，「効率と公正」の視点に立って，主体的に考え，追究しようとしている。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ・私たちと平和主義 	5	<p>《指導内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法に定められている平和主義について理解させる。 	

				<ul style="list-style-type: none"> 日本のこれからの安全保障や平和主義について、日米関係および世界の国々との協力関係のもとに、どのような方向に向かえばよいのかについて考えさせる。 <p>《評価規準》</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本国憲法が平和主義をとる意義を、憲法前文や憲法第9条などの文言のもとに、その成立の背景についての諸資料から様々な情報を効果的に取り入れて、調べまとめている。 日本国憲法が太平洋戦争の敗戦やポツダム宣言を受け入れた結果であることとともに世界で唯一の被爆国であることに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 平和主義を掲げる日本が、これからの世界の中でどのような役割を果たすべきかについて、現在の日米同盟関係や日本政府の安全保障政策と関連付けながら、その課題点と自分なりの解決策について、「効率と公正」の視点に立って、主体的に考え、追究しようとしている。 	
12月・1月	第3章 私たちの暮らしと民主政治	<ul style="list-style-type: none"> 民主政治と日本の政治 三権分立の仕組みと私たちの政治参加 	5 9	<p>《指導内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 民主政治の原則と国民の政治参加をめぐる諸課題について考え、理解させる。 国政の仕組みとして、三権を司る国会・内閣・裁判所のしくみと国民との関係について考え、理解させる。 <p>《評価規準》</p> <ol style="list-style-type: none"> 現在の選挙制度が国民主権の原理のもとでどのようなしくみを取り、機能しているかについて、公職逝去法や政党政治に関する諸資料などから様々な情報を効果的に取り入れて、調べまとめている。 日本国憲法の構造が、三権分立の仕組みに基づいていることを、憲法第4章から第6章までの条文を通して、多面的・多角的に考察し、表現している。 現在の日本の政治の課題点について、政党政治や議院内閣制などの仕組みや、裁判員裁判制度をとる司法制度に着目しながら、その課題点と自分なりの解決策について、「効率と公正」の視点に立って、主体的に追究しようとしている。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 地方自治と住民の参加 	6	<p>《指導内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方自治のしくみや課題について、国政との関連を踏まえて考え、理解させる。 <p>《評価規準》</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本国憲法における地方自治の制度が、民主主義の原理のもとでどのようなしくみを取り、機能しているかについて、憲法の条文および地方自治に関する諸資料などから様々な情報を効果的に取り入れて、調べまとめている。 地方自治の立法・行政機関のしくみと国の機関との相違点に着目しながら、地方自治が直接民主制をより多く取り入れている意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。 現在の地方自治の課題点について、国の財政支援や地域社会の変容などと関連付けながら、主体的に考え、追究しようとしている。 	
2月	第6章 国際社会に生きる私たち	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会の平和を指して 国際社会が抱える課題と私たち 	3 3	<p>《指導内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバル化が進む国際社会において、地球温暖化や金融危機、地域紛争やテロ、人権問題など、1つの国の中では解決できない、人類の抱える共通課題について考え、理解させる。 軍縮や安全保障など、国際社会における外交課題について、持続可能性や共生の視点をもって考え、理解させる。 <p>《評価規準》</p> <ol style="list-style-type: none"> 人類の抱える共通課題について、その課題解決に向けて、文化や宗教など、国や地域による生活や価値観の違いを視野に入れながら、諸資料から必要な情報を効果的に取り入れて、課題を調べまとめている。 国際連合や、各地域ごとに作られている協力関係に着目しながら、多面的・多角的に考察し、表現している。 世界で唯一の被爆国であることや先進国であるという日本の立場と関連付けながら、日本の役割について主体的に考え、追究しようとしている。 	
3月	終章（3分野のまとめ） 私たちが未来を築く	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な未来の社会へ 	4	<p>《指導内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代社会の諸課題について、多角的な視点で考察し、解決に向けた方策について考え、まとめさせる。 <p>《評価規準》</p> <ol style="list-style-type: none"> これまでの公民分野の学習のもとに、人類の抱える現代社会の共通課題について、その課題解決に向けて、「SDGs」や「持続可能な循環型社会」の考え方に着目しながら、諸資料から必要な情報を効果的に取り入れて、課題を調べまとめている。 国際社会における日本の立場と、世界の様々な国の意識や事情の違いをふまえて、多面的・多角的に考察し、表現している。 「国際社会の平和の実現と課題の解決に向けて、自分たちに出来ることは何か」という問いに対して、主体的に向き合い、追究しようとしている。 	

